

答え合わせ・解説

問1	答え 3 錆	「身から出た錆」の「錆」の部分が入ります。意味は「自分の行いが原因で、自分自身が苦しむことになること」です。
問2	答え 3 平和な時でも、いつか起こるかもしれない災難に備えて油断してはならない	「治に居て乱を忘れず」は「平和な時でも、いつか起こるかもしれない災難に備えて油断してはならない」という意味です。
問3	答え 1 自分で努力する人を、天は成功へ導いてくれる	「天は自ら助くる者を助く」は「自分で努力する人を、天は成功へ導いてくれる」という意味です。
問4	答え 1 馬子	「馬子にも衣装」の「馬子」の部分が入ります。意味は「どんな人でも身なりを整えれば立派に見えるということ」です。
問5	答え 2 他生	「袖振り合うも他生の縁」の「他生」の部分が入ります。意味は「見知らぬ人と袖が触れ合うようなわずかなことでも、前世からの深い因縁があるということ」です。
問6	答え 2 跡を濁さず	「立つ鳥跡を濁さず」の続きは「跡を濁さず」です。意味は「立ち去る時は、後始末をきちんとしておくべきだ」です。
問7	答え 1 虫	「飛んで火に入る夏の虫」の「虫」の部分が入ります。意味は「自分から進んで災難や危険の中に飛び込んでいくこと」です。
問8	答え 4 藍より青し	「青は藍より出でて藍より青し」の続きは「藍より青し」です。意味は「弟子が師匠よりも優れていること」です。
問9	答え 2 郷に従え	「郷に入っては郷に従え」の続きは「郷に従え」です。意味は「その土地や集団の習慣やルールには、自分を合わせていくべきだ」です。
問10	答え 2 山	「船頭多くして船山に登る」の「山」の部分が入ります。意味は「指図する人が多すぎて、物事がとんでもない方向に進んでしまうこと」です。
問11	答え 2 杭	「出る杭は打たれる」の「杭」の部分が入ります。意味は「才能があつたり目立ったりする人は、とかく人から憎まれたり邪魔されたりする」です。
問12	答え 2 子知らず	「親の心子知らず」の続きは「子知らず」です。意味は「親が子を思う深い愛情を、子は理解せず勝手な振る舞いをする事」です。
問13	答え 4 どんなに忙しくても、工夫次第で休み時間は作れる	「忙中閑あり」は「どんなに忙しくても、工夫次第で休み時間は作れる」という意味です。
問14	答え 1 茄子	「秋茄子は嫁に食わすな」の「茄子」の部分が入ります。意味は「秋の茄子は体を冷やしますので、子供を産む大切な嫁の健康を気遣う気持ち」です。
問15	答え 2 走る	「悪事千里を走る」の続きは「走る」です。意味は「悪い行いや噂は、あっという間に世間に広まってしまう」です。
問16	答え 3 天命を待つ	「人事を尽くして天命を待つ」の続きは「天命を待つ」です。意味は「自分ができる限りの努力をした上で、あとは運命に任せること」です。
問17	答え 2 十	「一を聞いて十を知る」の「十」の部分が入ります。意味は「少し聞いただけで全体を理解するほど賢いこと」です。
問18	答え 3 物事を始めた時の謙虚で真剣な気持ちを忘れてはならない	「初心忘るべからず」は「物事を始めた時の謙虚で真剣な気持ちを忘れてはならない」という意味です。